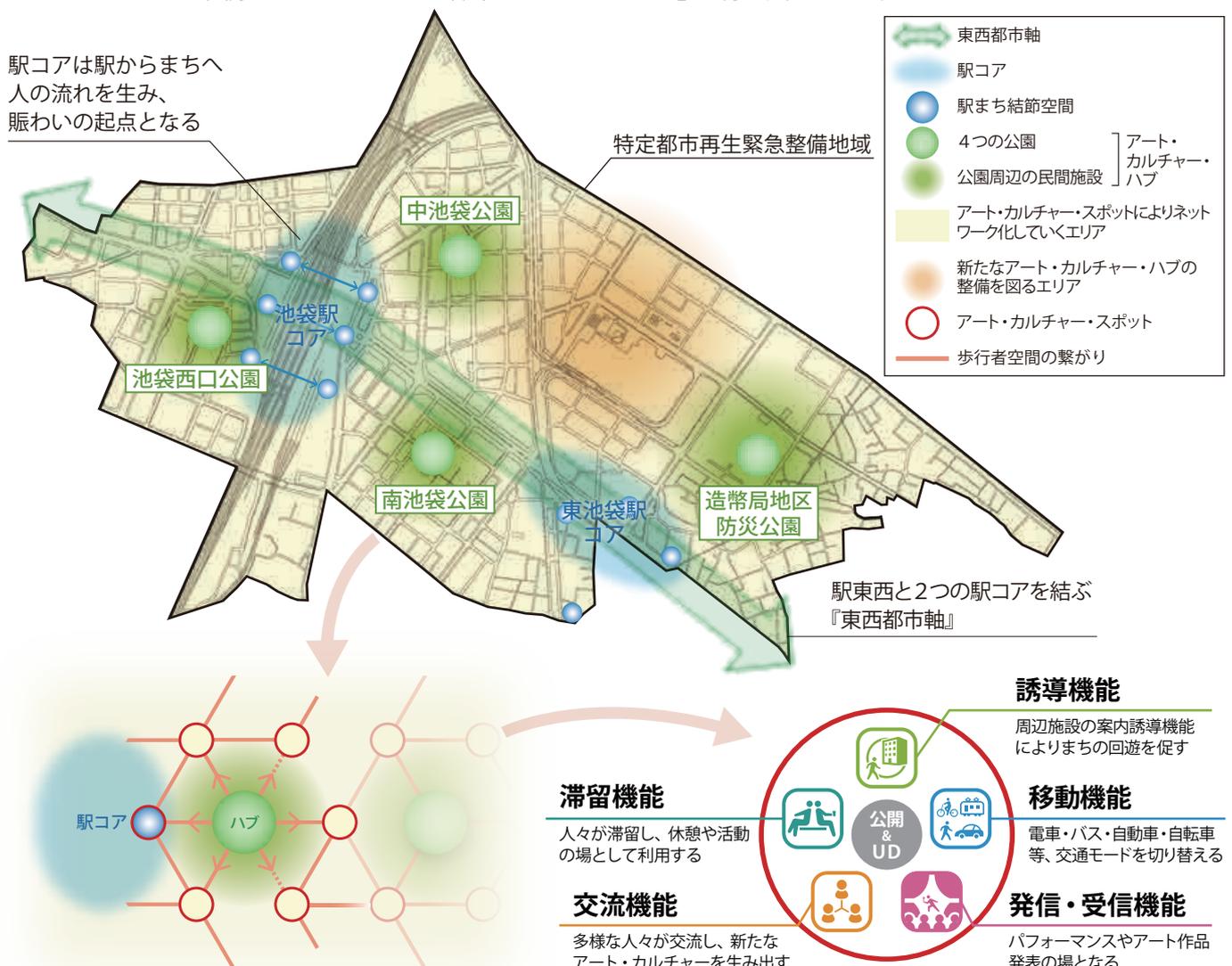


3. 地域の個性を際立たせるまちづくりの展開

■「国際アート・カルチャー都市のメインステージ」を育み支えるまちづくり

- 『都市の顔』であり人々の行動起点でもある池袋駅と東池袋駅は、周囲に多様な都市機能や情報が集積する交流拠点でもある。これらの結節空間を2つの**駅コア**として、駅とまちとの接続機能を高めていく。
- 池袋駅の東西と2つの**駅コア**を結ぶ『東西都市軸』は、都市の回廊として沿道施設と一体に美しい景観を形成し、人々の交流をまちへ広げる、回遊動線の幹となる。
- エリア特性に合わせた4つの公園（池袋西口公園、中池袋公園、南池袋公園、造幣局地区防災公園）の整備をきっかけとして、公園と周辺の民間施設との連携により、交流、表現、発信の舞台であり、アート・カルチャー活動の拠点となる**アート・カルチャー・ハブ**を育成していく。
- 駅コア**や**アート・カルチャー・ハブ**の交流やにぎわいを地域全体に広げていくために、誰もが自由に利用できるアート・カルチャーの表現空間として、**アート・カルチャー・スポット**をまちなかに整備し、ネットワークしていく。
- 人々がまちを歩き、交流することにより生まれる表現が新たな文化へと発展し、地域の個性と魅力をまち全体で発信していくことで「国際アート・カルチャー都市のメインステージ」を育み支えていく。



▶行動起点となる駅コア（駅まち結節空間）からまちへ人の流れを生み出し、アート・カルチャー・ハブやアート・カルチャー・スポットを結ぶ横動線を強化することで、駅の賑わいを面的にまちへ広げていく。

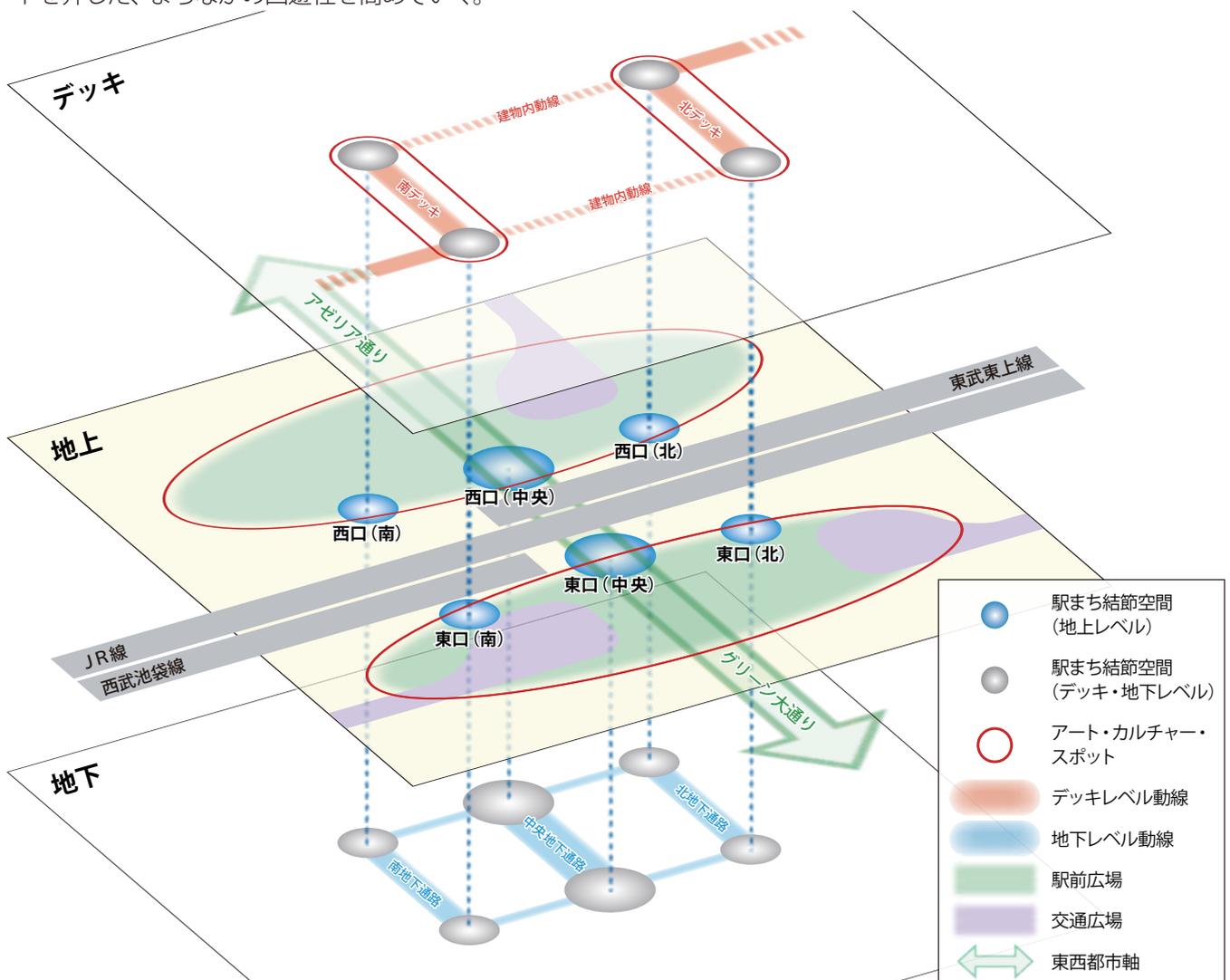
▶アート・カルチャー・スポットは、誰もが自由に利用できる公開性を持ち、ユニバーサルデザインに配慮した空間とする。滞留、誘導、移動といったハード機能、交流、発信・受信といったソフト機能を場所に依拠して整備する。アート・カルチャー・ハブは、複数の施設の連携によりこれらの多様な機能を備え、アート・カルチャー活動の拠点となる。

■ 駅コアの整備方針

	池袋駅コア	東池袋駅コア
特徴	4社8線が乗り入れ、1日264万人が利用する まちの玄関口 。百貨店等の商業施設も充実し、東西3箇所ずつの出口でまちと接続している	1日4.3万人が利用する まちの第2の玄関口 。都電荒川線の東池袋四丁目停留場とも隣接し、アウルタワーや豊島区庁舎と地下で接続している
整備項目	駅関連施設	駅まち結節空間
	東西連絡通路	東西駅前広場
整備主体	鉄道事業者・駅周辺開発事業者・公共が連携して整備する	
整備する機能	●地上と地下、デッキとの接続 ●駅とまちを結ぶ玄関口	

〈池袋駅コアの動線イメージ〉

- 3本の地下通路と東西連絡通路（北デッキ、南デッキ）により、東西駅前広場を明快につなぐ。
- 地下やデッキと地上とをつなぐ東西3か所ずつの駅まち結節空間を起点として、駅からまちへ人の流れを拡大していく。
- 駅東西の接続機能を強化し、多様な交通モードとも連携することで、東西都市軸やアート・カルチャー・ハブ、スポットを介した、まちなかの回遊性を高めていく。



■ アート・カルチャー・ハブ／アート・カルチャー・スポットの育成方針

	アート・カルチャー・ハブ	アート・カルチャー・スポット
特徴	池袋駅周辺地域における アート・カルチャー活動の拠点 。回遊の目的地であるとともに、周辺の施設と連携した 回遊の拠点 となる	アート・カルチャー・ハブを 補完する空間 。それぞれを ネットワーク化 することで、回遊性の向上、都市機能の向上を図る
場所	4つの公園 （池袋西口公園・中池袋公園・南池袋公園・造幣局地区防災公園）と、公園を核とした 周辺民間施設 。（他は必要に応じて新たに整備）	池袋駅・東池袋駅コアゾーン内及び、主要な 歩行者ネットワーク沿いや交差点 など
育成主体	民間開発事業者と公共が連携して整備する	民間都市開発事業に合わせて、事業者が整備。導入機能の内容に応じて、公共側でも必要な連携・支援を行う
育成する機能 (◎ ベース機能 ○ サブ機能)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 滞留機能 ◎ 交流機能 ◎ 発信・受信機能 ◎ 誘導機能 ◎ 移動機能 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 滞留機能 ○ 交流機能 ○ 発信・受信機能 ◎ 誘導機能 ○ 移動機能

■ アート・カルチャー・ハブの核となる4つの公園の特徴

池袋西口公園

- 東京芸術劇場や西口駅前地区等との連携により劇場公園を整備
- 観光案内や情報発信機能を兼ねたカフェを併設する計画



中池袋公園

- Hareza 池袋の8つの劇場やアニメイト等と連携し、多様な交流の場として活用
- 滞留機能、交流機能、発信・受信機能などを計画



南池袋公園

- 園内の芝生広場やカフェに人が集まる憩いの空間、グリーン大通り等との連携や屋外劇場としての利用も進む
- 滞留機能、交流機能、発信・受信機能、移動機能（駐輪場）など、多様な用途を有する



造幣局地区防災公園

- 防災機能を有する区内最大規模の公園、隣接する東京国際大学等との連携により新たな交流拠点を整備
- 防災機能の他、滞留機能、交流機能、発信・受信機能などを計画



■アート・カルチャー・スポットの空間イメージ

●滞留機能

人々が滞留し、休息や活動の場として利用する

- ・敷地内に歩道と一体となった広場や空地が設けられ、隣接する施設や店舗から賑わいが連続している。
- ・ベンチやみどりが配置され、誰もが気ままに休憩できる。

●交流機能

多様な人々が交流し、新たなアート・カルチャーを生み出す

- ・広場や施設内に、人々の交流を促す様々な機能や仕掛けがある。
- ・地域性を生かした、リノベーション等による小規模なギャラリーやスタジオなどでの交流も進んでいる。



アート・カルチャー・ハブ

●発信・受信機能

パフォーマンスやアート作品の発表の場となる

- ・建物の内外に、様々なイベントやパフォーマンスに対応した空間や情報を発信する機能がある。
- ・建物内の表現やアクティビティが外部にも伝わり、外部空間と一体となる空間が形成されている。

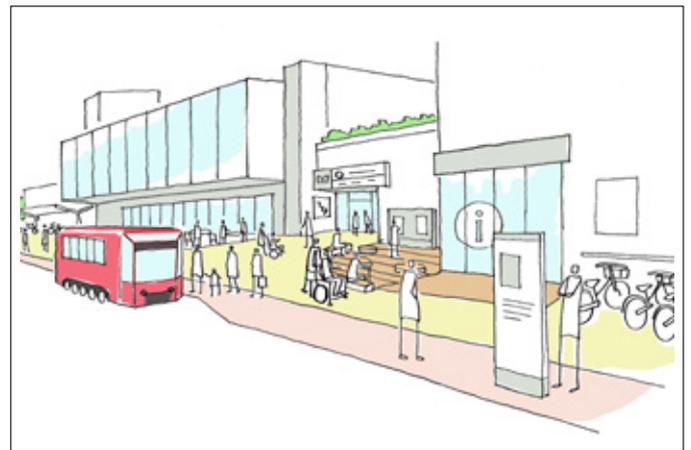


アート・カルチャー・スポット

●移動機能

電車・バス・自動車・自転車等、交通モードを切り替える

- ・アート・カルチャー・ハブやスポットを結ぶ電気バス等の利用など、多様な交通手段への乗り換え、切り替えが容易にできる。



アート・カルチャー・スポット

アート・カルチャー・スポット

●誘導機能

周辺施設の案内誘導機能によりまちの回遊を促す

- ・道路や敷地内に設置された、地域共通の案内サインにより次の目的地や周囲の状況を容易に確認できる。
- ・インフォメーションやサイネージ等により、様々な活動や施設の様子を案内している。

アート・カルチャー・ハブ